

高齢者(70歳以上)総胆管結石に対する治療経験

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本胆道学会 公開日: 2013-08-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 坂口, 孝宣, 鈴木, 昌八, 森田, 剛文, 大石, 康介, 鈴木, 淳司, 福本, 和彦, 稲葉, 圭介, 松田, 純一, 山本, 健太郎, 矢野, 義明, 中村, 達, 今野, 弘之 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/1903

浜松医科大学 医学部 第2外科¹, 磐田市立総合病院 外科², 浜松北病院 外科・消化器科³

坂口 孝宣¹, 鈴木 昌八², 森田 剛文¹,
大石 康介¹, 鈴木 淳司¹, 福本 和彦¹,
福業 圭介¹, 松田 純一³, 山本 健太郎³,
矢野 義明², 中村 達¹, 今野 弘之¹

【背景・目的】高齢総胆管結石患者は多臓器機能障害を有することが多く、状態に応じた治療戦略選択が要求される。過去の症例経験をもとに、適切な治療法について検討することを目的とした。**【対象】**過去5年間に総胆管結石に対して治療を施行した70歳以上の患者17例。**【結果】**年齢は71～91歳，男女比7:10，胆管炎・黄疸ありは15例，合併疾患は心血管系4，認知症3，脳梗塞後遺症2，糖尿病，腎不全各1例。石の最大径は2～30mm，単発8例，多発9例であった。Precutを要する等の挿管困難は4例，ESTから完全摘石までに内視鏡施行を3回以上要した摘石困難例が2例あったが，全例摘石可能であった。EST，ENBD後合併症なしは13例，軽症肺炎3例，誤嚥性肺炎1例認めた。胆嚢結石に対しての治療は，胆摘済み1，LSC9，開腹胆摘5例。胆摘未施行2例はいずれも重度心不全のため胆摘断念したが，EST後6，14月現在胆嚢炎の兆候なし。総胆管結石再発はEST後3，3，21月で3例に認めた。**【結論】**高齢者総胆管結石患者は種々の臓器不全を合併し，挿管や完全摘石が困難な症例も多いが，内視鏡治療，引き続いての胆嚢摘出は安全に施行できる。しかし，結石再発があり，定期的な観察が必要である。